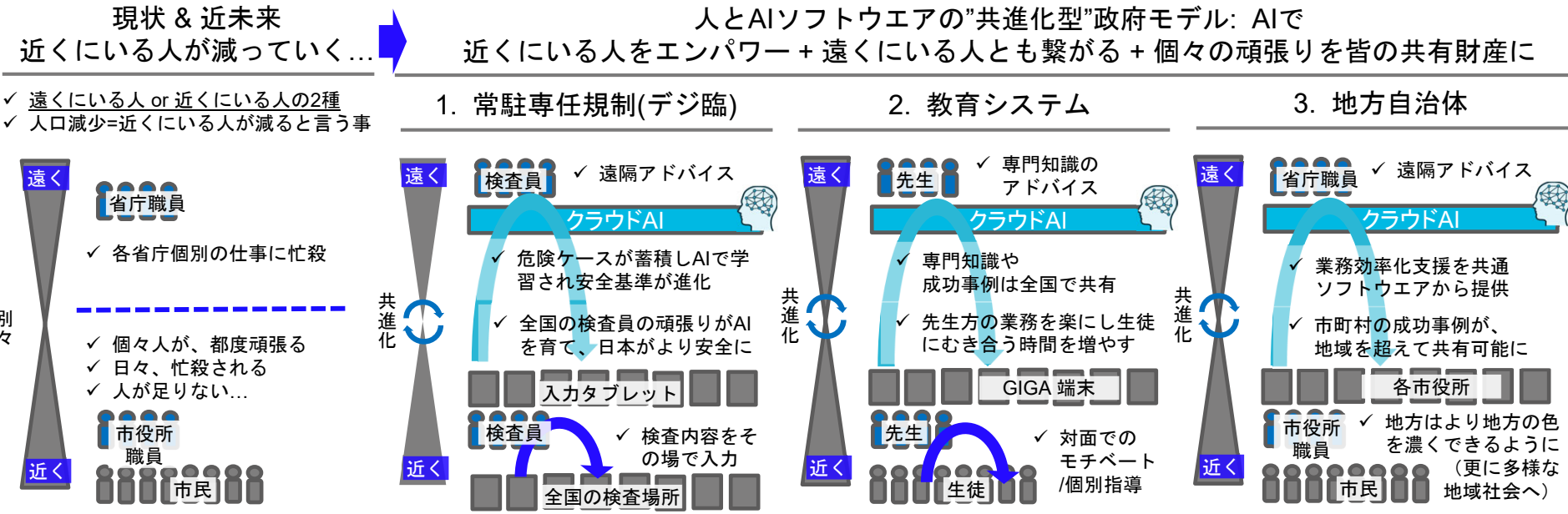


人口減少下に、行政サービスを継続的に維持 / 高度化し、国民の "可能性と繋がり" (≡ 日本的共同体) を継続強化する「人とAIソフトウェアの”共進化型”政府モデル」の提案

デジタルに関するよくある誤解

- AI/デジタルとは、本来、人の職を奪ったり人と対立する ものではなく、本来人のための技術である
- AI/デジタルでできること = [①:自動化技術] + [②:知恵の保存&共有技術] + [③:繋がり強化技術] + [④:人の個性の受容技術]
- 人口減少下でも、下記構成にすることで、これまでの行政サービスを維持/強化/進化させ続けることが可能となる

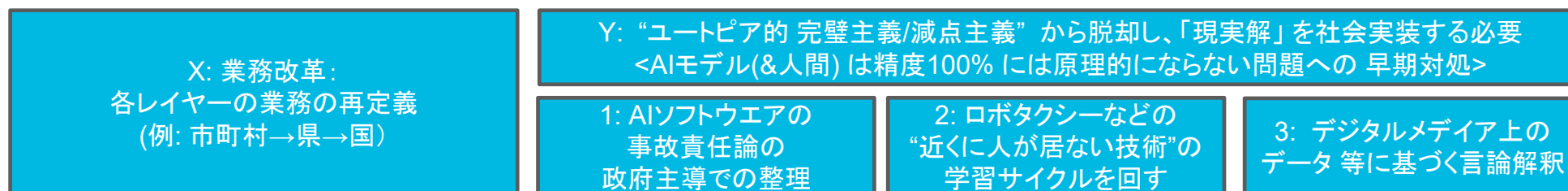
人とAIソフトウェアの”共進化型”政府モデル



人口減少社会 = 近くにいる人が激減していく社会 では、“近くの人”と“遠くの人”が連携する「共進化型モデル」への移行が必須
 → ①: 近くの人をエンパワー、②: 遠くの人からも支援&繋がる、③: 誰かの成功モデル/知恵をエリアを越え共有
 上記を通じて、皆の日々の頑張りを、クラウドAIで「知恵の共有空間」とする、皆でクラウドAIを育てることを通じて “繋がり”を増やす

直近克服すべき課題:: デジタル特性に合わせた業務改革 / 意識転換の必要性

- 人口減少下でも、国民の知恵の共有空間(クラウドAI)で、人と繋がりをエンパワーして行くために... 下記が喫緊の課題
- 既存のルール / 制度の連続的改善ではなく、非連続な変更が求められる箇所を記載



- | | | | |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 「各レイヤー(例: 市町村→県→国)がどの業務」をやるかを「利用者起点」で再定義・設計する必要 ● 行政でAI・クラウド活用する場合に向けて、どこは共通化/標準化するか、どこは創意工夫にゆだねるかの整理が必要。 ● それをデジ行財で具体分野をやりながら明確にするべき | <ul style="list-style-type: none"> ● 一件でも事故があると全てが止まる現状を打開する必要 ● AIソフトウェア(自動運転等)の事故責任論は「企業ではなく政府主導」で制度やガイドライン(含 保険)を出す必要 | <ul style="list-style-type: none"> ● 近くの人エンパワーに留まらず、“近く”に人が居なくても社会が回るデジタル技術の社会実装が中期に必須 <ul style="list-style-type: none"> — ロボタクシー — 介護ロボット etc ● 民間主導ではなく、特区で実証→データ収集→改善する学習サイクルの早期構築 | <ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャルメディア上のデータ等に基づく言論解釈が重要 ● 超少数からの批判で取り組みにブレーキがかかる現状を変える必要 ● EBPMが進むと解消する可能性 |
|---|--|---|---|

→ AIの世界では「失敗/エラー」を「学習」と呼ぶ。人間もそうであるはず